

学生のための SDGs ビジネスモデル研修実施報告

2021年10月8日

PMI 日本支部 理事 教育国際化委員会 除村健俊

PMI 日本支部 ソーシャルPM 研究会 大小田恵子、大久保剛

PMI 日本支部 ソーシャルPM 研究会 野尻一紀、河合慎一郎

はじめに

2021年9月18日午後、件名の研修を実施しましたので報告いたします。

本研修は同年3月に実施した研修に続く、第2回の実施となります。本研修の実施責任者は除村、講師は大小田と大久保、研修当日の支援は野尻と河合が担当しました。

研修の目的

学生が就職活動や企業で仕事、起業などで活躍することを期待し、この研修の目的を以下のように定めました。

「世界をより良くするために社会課題を見つけ、それを解決する斬新なアイデアと事業化案を考え、これらの考えを明確化するための手法としてリーンキャンバスの使い方の学習と、魅力的なプレゼンテーションの仕方を学習する。」

本研修の学習目標は、以下の通りです。

1. リーンキャンバスを使って事業計画(ビジネスモデル)を立案できるようになる。
2. 自分の考えを魅力的にプレゼンテーションできるようになる。

研修の実施概要

研修は土曜日の午後に4時間実施しました。参加者は7人(男性2名、女性5名)で、全員、親族や知り合いなどからの紹介で参加していました。参加者の構成は、理系5人、文系2人で、また、学年は3年生5人、2年生、4年生それぞれ一人でした。研修はZoomで行い、2つのチームを構成し、企業のベテラン社員がチームの指導にあたりました。

研修の構成は以下のようになっています。

1. 事前学習： 反転授業の考え方を取り入れ、資料とビデオを準備し事前学習をしてもらい、事前課題を提出してもらいました。事前学習の資料では、SDGsとは、リーンスタータアップ、リーンキャンバス作成手順などを説明しています。リーンキャンバス作成手順では、「新型コロナウイルス感染防止のために介護施設に入っている家族に、面会ができない」という課題に対し、解決策の一つとして「顧客が減っているタクシーや、高所作業車を面会室として活用する」という事例を使い、リーンキャンバスの各項目に

どのように記入したら良いか具体的に解説をしています。資料を読むことに加え、動画を見て効果的に学習できます。

事前課題は下記の2つです。

- 介護施設では認知症の悪化を防ぎ、人間らしい生活をしてもらうためにできるだけ拘束をしない方が良い。しかし、徘徊も発生することがあり、できるだけ、早く老人を発見したい。このために、「自販機を活用した見守りネットワーク」を考え、リーンキャンバスを作成し、提出してもらう。
 - 既に提供されている似たサービスもあり、競合となりうる高齢者の見守りサービスの例を示し、事前に勉強してもらう。
2. 研修当日のリーンキャンバスの研修： 競合となりうる高齢者の見守りサービスの例を超えるアイデアをチームで考え、事前学習で作成したリーンキャンバスを更新する。この時、現場の介護者や介護の専門家のインタビューを資料として提示し、介護現場の状況をリアルに理解できるようにしました。また、企業の社員がチームに入り、時間管理を行ったり、タイミングを見計らって、適切なアドバイスを行ったりしました。
 3. 研修当日のプレゼンテーションの研修： 説得力があり、魅力的なプレゼンテーションの仕方を学習し、作成したリーンキャンバスを基に、入社を希望する企業のSDG推進室長を想定してプレゼンテーションを行ってもらいました。

研修のアンケート結果

アンケートでは以下の4つの視点から、5段階評価（5：非常によい）で評価してもらいました。

1. 事前学習： 「SDGs とリーンキャンバス作成方法を学ぶ」をどのように評価されますか？
2. 講義と演習： 「リーンキャンバスとビジネスモデル」をどのように評価されますか？
3. 講義と発表： 「作成したリーンキャンバスの基づくビジネス提案」をどのように評価されますか？
4. 今回の研修の満足度はいかがですか？

その結果、すべての質問に対し7人全員が5；非常によい、と評価していました。図1に満足度評価のグラフを示します。

また、主要なコメントは以下の通りです。

- 事前学習では、動画による説明付きで1人でも課題をこなすことができた。
- インプットだけではなく実践的にリーンキャンバスを作成する機会があった。
- グループで協力してビジネスモデルを考える経験をできた。

- 学校の授業では学ぶことの出来ない講義内容でとても勉強になった。
- 他の受講生とのディスカッションを通して、リーンキャンバスを使ってビジネスモデルについて考えを深められた。
- 参加者の意識がとても高く、非常に刺激された。
- グループで交流することで様々な発見があり、より深く学習することができた。
- 効果的なプレゼンの仕方を学び、それを実践することができた
- グループワークで参加者や講師の方との意見交流は非常に勉強になった。
- ビジネスモデルの考え方や良いプレゼンの方法について学べた。また、グループワークでは小さなことでも自分の考えを発言していくという目標を達成できた。
- 講師の方や他大学の学生と交流することができ、刺激を受けました。
- 研修のどの項目も充実していた。
- とても良い経験になった。

今回の研修の満足度はいかがですか？

7件の回答

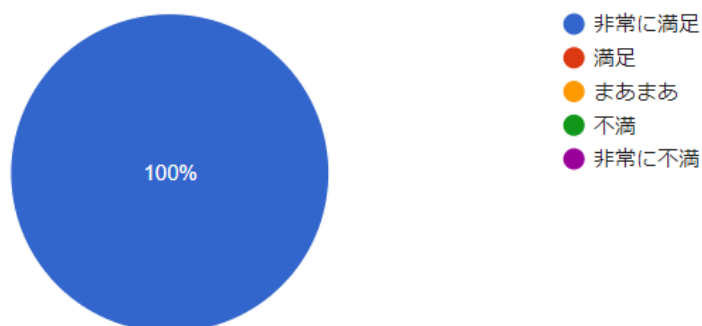


図 1. 研修の満足度評価

研修の感想

研修当日の参加者の感想やアンケートを見ると、参加者の評価は非常に高く、講師陣もやりがいを感じた研修でした。以下、評価を上げたと考えられるポイントを以下に述べます。

- 前回の研修では、テーマとなる課題設定が学生には適切でなかった点やビジネスケースの財務的シミュレーションを入れた点など、課題設定や時間配分などで反省点がありました。このため、今回の研修では、学生が新たなアイデアを発想し、リーンキャンバスでアイデアを整理し、プレゼンテーションするという、まとまりのある一連の流れに焦点を当てた研修にできました。

- アイデアを生み出す議論は、メンバーを活性化し、グループワークの雰囲気をよくしたと考えられます。
- 時間的に詰まった研修でしたが、それがかえって企業での実際の仕事のように、適度な緊張や作業分担による効率化など、グループでの効率的な作業に役立ったと考えられます。
- 指導者が適切にアドバイスしたことで、議論の活性化や時間管理など、グループワークの活性化に貢献したと考えられます。

研修の今後

次回の研修は、2022年3月に実施予定です。この研修は、大学の授業ではなかなか学べない実社会・実企業で役立つ研修です。また、インターンなどに応募する際や、インターンとして企業で働く際に役立つ知識や経験を得られます。ぜひ、PMI 会員の皆様のご子息や、知り合いの大学生にも本研修をご紹介ください。